

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 5 日

事業番号	01301	事業名	広報紙発行事業	部会名	総務部会
				所属名	秘書企画課
				係名	公聴広報係

I 計画

事業内容		
事業の目的	読みやすく親しまれる広報紙を作成して、市の主要施策や重要課題等の情報を市民に分かりやすく伝える。	
事業の対象者	市民等	
手法 (実施内容)	毎月15日を発行日とし、市内の各世帯、事業所及びコンビニなどへ広報紙を配布している。世帯配布は町内会を通じて行い、市役所本庁、各地域局及び各地域市民センターで仕分けされた配布物は、一部の地域市民センターを除き業者によって町内会長へ配達される。併せて、市ホームページや電子書籍などへの掲載も行っている。 令和6年度は紙面構成を24ページを基本とし、毎月11,900部発行。また、朗読の会と連携し、視覚障害者向けの「声の広報」も掲載。	
根拠法令等	高梁市公聴広報に関する規程	
成果目標 (アウトカム)	目標(数値)	市ウェブサイトの年間閲覧件数 令和元年度：239万件→令和7年度：300万件
	現状分析	令和2年度：294万件（うちコロナ関連23万件）、令和3年度：353万件（うちコロナ関連50万件）、令和4年度：292万件（うちコロナ関連40万件）、令和5年度：237万件となっており、コロナ禍による関連ページへのアクセス増があったが、現状はコロナ前の数値に戻っている。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	多様な主体との連携・協働による持続可能なまち	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	市民が主役のまちづくりを進めます	R3年度 12			5,470	5,482	1.80	9,896	15,378
施策	公聴広報の推進	R4年度 12			5,770	5,782	1.50	8,247	14,029
施策の展開方針	積極的に行政情報を提供します	R5年度 12			6,331	6,343	1.50	8,247	14,590

II 実行

主な活動実績（アウトプット）		主な支出内容と事業費		
令和 3 年 度	毎月12,470部発行	印刷製本費	5,158	千円
		通信運搬費	324	千円
				千円
令和 4 年 度	毎月12,300部発行	印刷製本費	5,412	千円
		通信運搬費	370	千円
				千円
令和 5 年 度	毎月11,900部発行	印刷製本費	6,074	千円
		通信運搬費	269	千円
				千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）				
自治体が行おうとしている政策や施策が地域住民の暮らしにどのような影響を与えるのかを説明することにより、行政サービスの利用促進、必要な手続きの遂行、必要な行動などを促すきっかけとなる。また、自治体が行う行事やイベントなどの情報を地域住民に伝え、参加を促すことも自治体広報の役割と言える。このため、読んでもらえる紙面づくりはもとより、多様な情報発信手段を活用して幅広い世代、ターゲット層に合わせた適切な情報提供に取り組んでいかなければならない。				

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	
有効性	適切	
費用対効果	改善の余地あり	令和6年度から編集作業を外部委託している。これによる委託料の増加はあるものの、超過勤務手当の削減が見込まれるため他の広報手段の充実を図る。また、全ページ4色刷りである妥当性を検証し、更なる節減を検討する。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	広報紙は全世帯に配布しており、市民生活に関わりの深い行政情報等を確実に市民に提供できることから、市からの情報発信手段の中でも有効な媒体である。しかしながら近年のデジタル環境の進展に伴い、情報伝達媒体が多様化しているため、紙媒体の広報紙とインターネットそれぞれの特徴をいかした効率的な情報発信の仕組みづくりを検討していく必要がある。
二 ー ス	変化なし	



部会長（本部委員）コメント	今年度から外部委託となるが、紙面の構成など市民が読みやすいように努めること。また、市の施策を享受している市民の声を取材し掲載することも重要。紙面に市民を登場させることによって親しみのある広報紙となる。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 5 日

事業番号	01302	事業名	シティプロモーション推進事業	部会名	総務部会
				所属名	秘書企画課
				係名	公聴広報係

I 計画

事業内容	
事業の目的	高梁市シティプロモーション戦略に基づき、本市の認知度向上とイメージアップを図るため、地域の魅力を発信するシティプロモーション活動を進める。
事業の対象者	市民、高梁市出身者、大都市圏の若者等
手法 (実施内容)	・認知度の向上と交流・関係人口の拡大に向けたアウトタープロモーション ・移住の促進に向けたアウトタープロモーション ・シビックプライドの醸成に向けたインナープロモーション
根拠法令等	高梁市シティプロモーション戦略（令和4年3月策定）
成果目標 (アウトカム)	目標(数値) 市ウェブサイトの年間閲覧件数 令和元年度：239万件→令和7年度：300万件
	現状分析 令和2年度：294万件（うちコロナ関連23万件）、令和3年度：353万件（うちコロナ関連50万件）、令和4年度：292万件（うちコロナ関連40万件）、令和5年度：237万件となっており、コロナ禍による関連ページへのアクセス増があったが、現状はコロナ前の数値に戻っている。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ	
基本方針	横断的政策
政 策	人口減少対策に取り組みます
施 策	移住・定住の促進
施 策 の 展 開 方 針	シティプロモーションを推進します

本事業に要する経費（単位：千円）								
	事業費					人件費(概算)		総計
	国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
R 3 年度					0		0	0
R 4 年度	20,090			344	20,434		0	20,434
R 5 年度				5,714	5,714		0	5,714

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和3年度	・高梁市シティプロモーション戦略（令和4年3月策定）		千円
			千円
			千円
令和4年度	・たかはし動画CMコンテスト応募件数：32件 ・電子雑誌「旅色」の公開 PR動画再生回数：約10万回 ・「旅色」冊子制作（A4：1万部、A5：1万部）	電子雑誌「旅色」タイアップ事業	18,700 千円
		ブランドメッセージ作成委託	785 千円
		シティプロモーション動画制作委託	385 千円
令和5年度	・たかはし動画CMコンテスト応募件数：14件 ・市公式インスタグラム開設(R5.11.30)：フォロワー数980人（R6.4.1） ・「たかはし人図鑑」制作：2,640部	シティプロモーション推進委託業務	5,000 千円
		「たかはし人図鑑」印刷業務	330 千円
		たかはし動画CMコンテスト経費	171 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
動画CMコンテストでは、市内高校生、大学生を中心に多くの応募がありシビックプライドの醸成につながったものとする。一方で、「旅色」や「たかはし人図鑑」の制作は、即効性のある取り組みではないため、数値などでも効果が測りにくい部分がある。課題であるふるさと納税の増額に向けては、これまで以上に情報発信等の取り組みを強化し、認知度の向上、関係人口の拡大につなげていきたい。			

III 担当課の評価・改善

評価項目	活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価	
目的妥当性	適切	
有効性	適切	マスメディア等への情報発信や、各種SNSによる配信は、市民の愛郷心や市外住民への認知度向上に有効な取組であり、引き続き積極的に進めていく必要がある。
費用対効果	改善の余地あり	積極的なマスメディアの活用、各種SNSによる全国的な情報発信により、広告宣伝費等の経費を抑え、効率的なプロモーション活動を実施する必要がある。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化なし	
二 ー ス	変化なし	引き続き、積極的な広報活動や各種SNSの活用などにより、高梁市ならではの魅力を強く発信する必要がある。

部会長（本部委員）コメント	市の様々な取組を発信することがシティプロモーションの活動につながる（せっかく制作した動画CMコンテスト作品をうまく発信する方法はないものか）。情報発信を工夫し、高梁市を売り込み、住民のシビックプライドにつながるよう取り組んでほしい。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 5 月 28 日

事業番号	03301	事業名	D X 推進事業	部 会 名	総務部会
				所 属 名	デジタル・未来戦略課
				係 名	DX推進係

I 計画

事業内容		
事業の目的	デジタル技術を活用して業務効率化を図り、ニーズに即した利用者中心の行政サービスの実現をめざし、地域社会の活性化をめざします。	
事業の対象者	市職員及び市民	
手法 (実施内容)	高梁市DX推進計画の基本目標1～3に掲げる目標に向けてプロジェクトを実行していく	
根拠法令等	高梁市DX推進計画－参考資料に掲載のガイドライン等	
成果目標 (アウトカム)	目標(数値)	なし
	現状分析	DXアドバイザー2名により、各種プロジェクト、セキュリティポリシーの改正等を実施

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	横断的政策	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	未来革新技術を活用します					0		0	0
施策	Society5.0の推進				5,244	5,244	1.80	9,896	15,140
施策の展開方針	デジタル化を推進します				17,196	17,196	1.80	9,896	27,092

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和3年度			千円
			千円
			千円
令和4年度	・DXアドバイザー 1名 ・AR技術を活用した防災訓練 ・農地情報を一元化するaccess構築 ・アップルウォッチを活用した特定保健指導支援	DX推進アドバイザー委託料	3,999 千円
		システム整備委託料	715 千円
		システム利用料	418 千円
令和5年度	・DXアドバイザー 2名 ・AR、VR技術を活用した防災訓練 ・農地情報を一元化するaccessの拡張 ・保育園留学事業委託	DX推進アドバイザー委託料	7,997 千円
		保育園留学事業委託	5,500 千円
		システム利用料	1,704 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	単純なシステム導入ではなく、業務に変革を起こし、本来の目的を達成に繋げるDXの考え方は地方公共団体の存在意義（バーパス）につながる手法と考える
有効性	適切	本来の目的が達成（業務の質の向上）され、効率的な業務遂行により労働時間の削減につながる手法は、知的生産性向上につながることから、DX推進は有効の手段と考える
費用対効果	改善の余地あり	個々の案件について取り組んで来たが、市役所全体の改革までに至っておらず、費用対効果が高い状態までに至っていない
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	生成AIの登場によりデジタル技術の活用する職員のレベルアップが求められている。
二 ー ス	増加	職員が減少していくことが予想される中で、業務を効率的に行わなければならない状態になっている。



部会長（本部委員）コメント	デジタル技術を活用して業務の効率化を図ることは、市役所内部を横断的に推進していく重要な施策であり、地域にとっても活性化につながる。DX推進事業は強力に進めていく事業と考える。
---------------	---

令和 6 年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和 6 年 6 月 7 日

事業番号	04301	事業名	災害対策総務費（自主防災組織支援事業補助金）	部会名	総務部会
				所属名	防災復興推進課
				係名	防災推進係

I 計画

事業内容		
事業の目的	地域の防災力の強化を目指して組織される自主防災組織の結成を促進し、その活動を支援するとともに、防災機材等の整備を図る。	
事業の対象者	市内の自主防災組織（一部条件により自主防災組織以外も対象）	
手法（実施内容）	災害時に地域住民が中心となり自助・公助によって避難所運営や要支援者支援など対応できるよう防災力の向上を図るため、自主防災組織を結成し、防災訓練、防災士養成、講演会・学習会開催、防災マップ作成、防災資機材整備を行うため必要な経費を補助する。	
根拠法令等	災害対策基本法、消防組織法、大規模地震対策特別措置法、国民保護法、高梁市地域防災計画、高梁市自主防災組織活動促進事業補助金交付要綱、岡山県防災まちづくり総合支援事業補助金交付要綱	
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	地域自主防災組織のカバー率 100%（目標年度：令和 7 年度）、防災士資格取得者数（累計）80 人（目標年度：令和 7 年度）
	現状分析	令和 5 年度末組織カバー率 38.1%（33 組織）、令和 5 年度資格取得者数（累計）100 人（達成）

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ				本事業に要する経費（単位：千円）								
基本方針	横断的政策			事業費					人件費(概算)		総計	
				国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計		
政 策	災害に強いまちをつくります			R 3 年度	258		300	445	1,003	0.30	1,649	2,652
施 策	防災対策の強化			R 4 年度	355		1,300	323	1,978	0.30	1,649	3,627
施 策 の 展 開 方 針	地域防災力の強化を図ります			R 5 年度	408			403	811	0.30	1,649	2,460

II 実行

主な活動実績（アウトプット）		主な支出内容と事業費	
令和 3 年度	24 組織（内新規 3 組織）中、13 組織へ助成。うち県コミュニティ助成事業補助金 1 件（下大竹地域自主防災会、300 千円） 自主防災組織のうち新たに 3 名が防災士となった	補助金	1,003 千円
			千円
			千円
令和 4 年度	25 組織（内新規 1 組織）中、17 組織へ助成。うち県コミュニティ助成事業補助金 1 件（仁賀地域自主防災会、1,300 千円） 自主防災組織のうち新たに 3 名が防災士となった	補助金	1,978 千円
			千円
			千円
令和 5 年度	33 組織（内新規 8 組織）中、18 組織へ助成 自主防災組織のうち新たに 2 名が防災士となった	補助金	811 千円
			千円
			千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
【活動実績の分析】広報による自主防災組織設立に向けた紹介（R3.4.5の5月号）、市ホームページでの設立手続き、補助金、設立活動マニュアル（R5.9月作成）の掲載、未結成の町内会への設立促進のチラシ送付（R5.7月）などにより市民への周知実施。高梁市防災力向上委員会（R元.11月～R5.11月）によるモデル地区（3地区）を中心とした設立・活動に向けた取組 【効果・課題】令和5年度に実施した町内会あての結成促進案内については、各町内会からの反応も高く、案内以降に 6 組織、年度中 8 組織の新規結成があった。反対に防災意識はあるものの組織結成の必要性を感じていない地域もある。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	災害時の「共助」を強化するための組織化を進めるために必要な事業と考えられる。
有効性	適切	補助金を活用した、防災講話・訓練の実施、防災資機材、備蓄品整備、防災士養成を通じて地域の防災意識向上につながっている。
費用対効果	適切	県補助金、自治総合センターのコミュニティ助成補助金を活用し一般財源の負担軽減。また地域防災力向上による自助・共助を強化することにより公助による負担軽減につながっている。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	令和 5 年 1 月に発生した能登半島地震、南海トラフ大地震に備えた防災意識の向上
ニーズ	増加	上記理由によりニーズは増加している

部会長（本部委員）コメント	能登半島地震の発生をはじめとして近年の災害多発の状況からも地域の防災意識は高まっており、またコンスタンスに自主防災組織が結成されている状況にあるなかで、本事業の妥当性・有効性・費用対効果等は十分なものとする。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 3 日

事業番号	09301	事業名	地域特産作物生産団地育成事業	部会名	産業経済部
				所属名	農林課
				係名	農業振興係

I 計画

事業内容		
事業の目的	農業者が省力化等による生産性の向上や更なる産地としての耕作面積の拡大を目指す。	
事業の対象者	農業協同組合又は農業者で組織する団体等	
手法 (実施内容)	農業協同組合または農業者で組織する団体が産地の規模拡大や生産性の向上に取り組み、市場ニーズに対応した供給力の強化を図る。 ぶどう、トマト、白桃の施設整備の支援を図る。	
根拠法令等	-	
成果目標 (アウトカム)	目標(数値)	令和7年度 ぶどう販売額 1,107百万円、トマト販売額 391百万円
	現状分析	ぶどう、トマトともに近年の販売単価の上昇により金額的な目標は達成、また上昇している。一方栽培面積の増加には至っていない。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ	
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち
政策	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます
施策	農林水産業の振興
施策の展開方針	市内産農林水産物の消費拡大に努めます

本事業に要する経費（単位：千円）								
	事業費					人件費(概算)		総計
	国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
R3年度	15,880			47	15,927	0.10	550	16,477
R4年度	3,134			2,959	6,093	0.10	550	6,643
R5年度	4,941			4,863	9,804	0.10	550	10,354

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度	地域特産物生産団地育成事業補助金 JA晴れの国岡山びほくぶどう部会 2,991千円、びほくトマト部会 4,029千円、びほくもも部会 692千円 高梁市園芸施設導入事業元金補給補助金 1件 47千円	地域特産物生産団地育成事業補助金	15,880 千円
		高梁市園芸設備導入事業元金補給補助金	47 千円
			千円
令和 4 年 度	地域特産物生産団地育成事業補助金 JA晴れの国岡山びほくぶどう部会 5,319千円、びほくもも部会 229千円 高梁市園芸施設導入事業元金補給補助金 6件 545千円	地域特産物生産団地育成事業補助金	5,548 千円
		高梁市園芸設備導入事業元金補給補助金	545 千円
			千円
令和 5 年 度	地域特産物生産団地育成事業補助金 JA晴れの国岡山びほくぶどう部会 8,910千円 高梁市園芸施設導入事業元金補給補助金 9件 894千円	地域特産物生産団地育成事業補助金	8,910 千円
		高梁市園芸設備導入事業元金補給補助金	894 千円
			千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
県補助と組み合わせることで、引き続き産地として支援を行う必要がある。一方で物価上昇等による資材費の高騰は農業者に大きな影響を及ぼしており、社会情勢の変化にも対応できる支援が必要と思われる。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	園芸施設の初期投資に係る支援を行うことは、産地拡大につながる。
有効性	適切	園芸施設の初期投資に係る農家負担の軽減を図ることは、面積拡大に有効性がある。
費用対効果	適切	園芸施設に係る農家負担の軽減を図ることは、担い手の確保や規模拡大につながるができる。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	物価高騰に伴う資材費の高騰は営農の規模拡大や新規就農としての施設整備に大きく影響が出ている。
ニーズ	増加	資材費の高騰により、本制度での支援はますます重要となっており、産地の維持・拡大をする面でも大きな役割を担っている。



部会長（本部委員）コメント	担い手の確保、生産規模の拡大に向け継続して実施すべき事業である。
---------------	----------------------------------

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 3 日

事業番号	09302	事業名	有害鳥獣被害防止対策事業（野猿出没パトロール業務委託料）	部会名	産業経済部
				所属名	農林課
				係名	有害鳥獣対策係

I 計画

事業内容		
事業の目的	猟友会員へ委託して週3～4日程度、野猿の見回り、追払いを行い、野猿による農作物への被害を防ぐ。	
事業の対象者	市民	
手法 （実施内容）	・野猿の生息地域での農作物への被害状況及び行動域を見回りし、関係する地域市民センター及び住民に出没状況を知らせる。 ・業務日に、業務を実施したのち活動日誌により状況報告を行う。 ・過去の出没箇所地域を巡視し、住民からの聞き取り調査を行う。また、流星、爆竹の要望があれば配布を行う。 ・野猿出没時には、被害の情報により追払いなど現場対応を行う。 ・待機時間に市または市民より要請があれば、追払いなど現場対応を行う。 ・住民に配布する流星、爆竹及び追払いに使用する3連花火は市が支給する。	
根拠法令等	—	
成果目標 （アウトカム）	目標(数値)	令和8年度、被害金額14,500千円、被害面積24.00ha
	現状分析	被害額、面積ともに減少傾向ではあるものの、依然高水準である。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	事業費				人件費(概算)		総計	
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます	R3年度			2,872	2,872	0.10	550	3,422
施策	農林水産業の振興	R4年度			2,816	2,816	0.10	550	3,366
施策の展開方針	農林業の持続的な発展をめざします	R5年度			4,331	4,331	0.10	550	4,881

II 実行

主な活動実績（アウトプット）		主な支出内容と事業費	
令和３年度	野猿による農作物等への被害が頻繁に発生しているため、発信器による追跡が可能な群れに対して、猟友会員に委託して週３～４日程度、野猿の見回り、追払いを行う。	山本正二（巨瀬～津川）	1,631 千円
		松森修（巨瀬～中井～川面）	1,241 千円
			千円
令和４年度	野猿による農作物等への被害が頻繁に発生しているため、発信器による追跡が可能な群れに対して、猟友会員に委託して週３～４日程度、野猿の見回り、追払いを行う。	山本正二（巨瀬～津川）	1,463 千円
		松森修（巨瀬～中井～川面）	1,352 千円
			千円
令和５年度	野猿による農作物等への被害が頻繁に発生しているため、発信器による追跡が可能な群れに対して、猟友会員に委託して週３～４日程度、野猿の見回り、追払いを行う。	山本正二（巨瀬～津川）	1,736 千円
		松森修（巨瀬～中井～川面）	1,256 千円
		和田直樹（有漢町内）	1,337 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
発信機により野猿の追跡を行ったり、過去の行動パターンにより、行き先を予測しパトロールすることにより、事前に農作物被害を防げている。 また、農家からの追払い要請に迅速に対応できるため被害を最小限に防げている。 銃猟師の減少、高齢化により、新たなルートの増設、後継者の選定に苦慮している。			

III 担当課の評価・改善

評価項目	活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価	
目的妥当性	適切	新たな野猿群に発信機の装着を目指していることから、パトロール委託は重要である。
有効性	適切	パトロール委託を行うことで、職員が追払いに行くことが激減し、農作物の被害も減少した。
費用対効果	適切	パトロール委託をすることで、職員の人件費の削減につながり、有害鳥獣対策の効率化が図れている。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	野猿の頭数の変化、群の行動パターンの変化、発信器の装着数の増減などにより常に変化が生じる。
二 ー ズ	増加	常に新たな野猿群への首輪装着を目指しており、現在も発信機がついているが、パトロール委託が出来ていない地区がある。

部会長（本部委員）コメント	農作物への被害による生産者の生産意欲減退を防ぐためにも継続して実施すべき事業である。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 3 日

事業番号	09303	事業名	キャンプ場管理事業	部会名	産業経済部会
				所属名	農林課
				係名	林業振興係

I 計画

事業内容		
事業の目的	恵まれた自然環境を休養の場として提供し、市民の健康の保持増進を図る。	
事業の対象者	市民、キャンプ場利用者	
手法 (実施内容)	・キャンプ場開設期間 4月第4土曜日から5月第2日曜日、7月第3土曜日から10月31日（高梁美しい森は8月31日）まで ・開設期間の管理は地元団体へ委託 ・別途公園全体の管理も地元団体へ委託（公園管理事業として実施）。	
根拠法令等	高梁市キャンプ場等林間休養施設条例、高梁市キャンプ場等林間休養施設条例施行規則	
成果目標 (アウトカム)	目標(数値)	各施設管理会協力のもと施設の維持管理を行い、キャンプ施設の運営を行う。
	現状分析	各施設の管理会によって適正に管理されている。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）								
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち		事業費				人件費(概算)		総計	
			国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工		合計
政 策	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます	R 3 年度			696	3,418	4,114	0.10	550	4,664
施 策	農林水産業の振興	R 4 年度		741	769	2,528	4,038	0.10	550	4,588
施 策 の 展 開 方 針	農林業の持続的な発展をめざします	R 5 年度			629	3,287	3,916	0.10	550	4,466

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）				主な支出内容と事業費		
令和３年度	自然公園	利用人数	４８０人	利用料	５５０千円	施設管理委託料	１,８８１ 千円
	美しい森	利用人数	２４９人	利用料	１４５千円	防犯灯修繕、園内道路修繕	１,１８２ 千円
	合計	利用人数	７２９人	利用料	６９５千円	合併浄化槽清掃業務委託	９２７ 千円
令和４年度	自然公園	利用人数	４５３人	利用料	５７９千円	施設管理委託料	１,８８１ 千円
	美しい森	利用人数	２２０人	利用料	１８７千円	給湯施設修繕、浄化槽ブロワー修繕	１,０１２ 千円
	合計	利用人数	６７３人	利用料	７６６千円	合併浄化槽清掃業務委託	９２７ 千円
令和５年度	自然公園	利用人数	３４５人	利用料	４７５千円	施設管理委託料	１,８９２ 千円
	美しい森	利用人数	２５３人	利用料	１５３千円	キャンプファイヤー場排水管修繕	６５７ 千円
	合計	利用人数	５９８人	利用料	６２８千円	合併浄化槽清掃業務委託	９２７ 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）							
キャンプ開設期間中の運営や公園施設全体の維持管理を管理会等へ委託することで適切な管理ができています。しかしながら、会員の高齢化により数年先の運営についての見通しが困難となっている。今後管理会等での管理が困難なことになればキャンプ施設の閉園等も含め検討する必要があるが、自然公園は財産区との協定として業務を行っていること、美しい森は県から譲渡を受けた施設であることから対応の検討が必要。							

III 担当課の評価・改善

評価項目	活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価	
目的妥当性	適切	キャンプ場の維持管理を行い恵まれた自然環境を休養の場として提供できている。
有効性	適切	キャンプ施設以外にも公園施設や中国自然歩道も含まれていることから幅広い人が訪れている。
費用対効果	適切	利用料が年々減少している。歳出についても経費削減を行っているが、利用料ですべての経費はまかなえていない。運営期間を絞り経費の削減に努めている。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	キャンプの内容が細分化（オートキャンプ、グランピングなど）されたことからニーズが多岐に及んでいる。
ニーズ	減少	新型コロナウイルスが収束方向に向かいキャンプブームに陰りが見え始めている。

部会長（本部委員）コメント	管理をお願いしている地元の意欲もあり、できる限りの継続を望む。
---------------	---------------------------------

令和 6 年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和 6 年 6 月 3 日

事業番号	09304	事業名	高梁市農業試験研究施設利用推進事業	部会名	産業経済部
				所属名	農林課
				係名	農業振興係

I 計画

事業内容		
事業の目的	本市の農業拠点施設とするため、県立川上農業高校の跡地を農業生産技術の研修施設、農業研究ほ場として活用。 ・農作物の栽培等に係る研究・開発及び試験栽培 ・農業機械等の研究及び実証実験 ・新規就農者等、担い手確保・育成	
事業の対象者	アグリテクノナサーチ(株) 本市での農業振興関係の基本協定を平成23年に締結。	
手法 (実施内容)	農業生産技術の研修施設、また農業研究ほ場として活用し、本市の農業拠点施設としての運営に必要な経費を計上。	
根拠法令等	-	
成果目標 (アウトカム)	目標(数値)	-
	現状分析	-

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ	
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち
政 策	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます
施 策	農林水産業の振興
施 策 の 展 開 方 針	農林業の持続的な発展をめざします

本事業に要する経費（単位：千円）								
	事業費					人件費(概算)		総計
	国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
R 3 年度			750	1,451	2,201	0.10	550	2,751
R 4 年度			750	1,748	2,498	0.10	550	3,048
R 5 年度			750	2,344	3,094	0.10	550	3,644

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年度	・農作物の栽培等に係る研究・開発及び試験栽培 ・農業機械等の研究及び実証実験 ・新規就農者等、担い手確保・育成	消耗品費（農薬、堆肥、肥料、農業資材等）	719 千円
		光熱水費（電気代・水道代等）	899 千円
			千円
令和 4 年度	・農作物の栽培等に係る研究・開発及び試験栽培 ・農業機械等の研究及び実証実験 ・新規就農者等、担い手確保・育成	消耗品費（農薬、堆肥、肥料、農業資材等）	679 千円
		光熱水費（電気代・水道代等）	1,038 千円
			千円
令和 5 年度	・農作物の栽培等に係る研究・開発及び試験栽培 ・農業機械等の研究及び実証実験 ・新規就農者等、担い手確保・育成	消耗品費（農薬、堆肥、肥料、農業資材等）	568 千円
		光熱水費（電気代・水道代等）	1,080 千円
		施設等修繕工事費	561 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
本市の農業拠点施設として必要であるが、施設の老朽化が進んでおり、将来的には大規模な改修が必要となる。また、隣接する川上中学校が廃校になった場合、共有する施設の管理も課題となる。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	本市の農業拠点施設として必要である。
有効性	適切	農作物の栽培等に係る研究・開発及び試験栽培、農業機械等の研究及び実証実験、新規就農者等の担い手確保や育成に有効である。
費用対効果	適切	新規就農者等の担い手確保や育成のため、同施設でピオーネスクールやピーチスクールも開催している。このスクールから多くの方が農業を始め、その費用に見合った効果を上げている。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化なし	
ニ－ズ	変化なし	



部会長（本委員会）コメント	農業振興に一定の成果はあるものの、拠点施設の老朽化がかなり進んでおり、継続して使用するには改修等が必要である。
---------------	---

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 3 日

事業番号	09305	事業名	フラワーフルーツパーク管理事業	部会名	産業経済部
				所属名	農林課
				係名	農業振興係

I 計画

事業内容		
事業の目的	フラワーフルーツパーク（施設名：農業文化交流館）は、豊かな自然環境と地域資源を活かした、農業・観光等のふるさと情報を都市住民に提供するとともに、農林業に親しむ体験を通じて生産者と消費者の交流を促進する施設として設置されたもの	
事業の対象者	-	
手法（実施内容）	施設の活用として、各種団体へ貸し出しを行っているのと合わせ、屋外交流スペースについては、定期的に地域住民がまちづくりと合わせた地域活性化の取り組みを行い、地域の交流の場として活用している。	
根拠法令等	-	
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	-
	現状分析	-

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます			220	1,436	1,656	0.20	1,100	2,756
施策	農林水産業の振興			222	1,309	1,531	0.20	1,100	2,631
施策の展開方針	農林業の持続的な発展をめざします			212	981	1,193	0.20	1,100	2,293

II 実行

主な活動実績（アウトプット）		主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度	各種団体への貸付	施設運営費	1,655 千円
			千円
			千円
令和 4 年 度	各種団体への貸付 地域団体への地域活性化の取り組み	施設運営費	1,532 千円
			千円
			千円
令和 5 年 度	各種団体への貸付 地域団体への地域活性化の取り組み	施設運営費	1,193 千円
			千円
			千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
直営で運営している施設で、現在各種団体が利用を行っているが、地域のまちづくりでの取り組みを広げており、地域の拠点施設として、より効果的な活用について検討する必要がある。一方で、企業等への施設の引き渡しなども検討を行い見学等を進めているが、現状として引き渡しには至っていない。補助金等適正化法に関して耐用年数を区切りとした施設管理の方向性の決定が必要。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	改善の余地あり	設置目的にある生産者と消費者の交流を促進する施設として、利用頻度の拡大など図る必要がある。補助金等適正化法に関して耐用年数を区切りとした後の具体化について検討必要。
有効性	改善の余地あり	設置目的を達成するために、利用頻度の拡大だけでなく、施設のPRを行う必要がある。補助金等適正化法に関して耐用年数を区切りとした後の具体化について検討必要。
費用対効果	改善の余地あり	現在の施設維持の費用と利用料のバランスは取れておらず、利用頻度の拡大と合わせて、施設の効果的な利用について検討が必要である。補助金等適正化法に関して耐用年数を区切りとした後の具体化について検討必要。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化なし	
二　　ス	変化なし	



部会長（本部署員）コメント	交流人口拡大を図るための地元による利活用はあるが、施設規模が大きく利活用の使用料と維持費のバランスがとれていない。
---------------	---

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 5 月 31 日

事業番号	10301	事業名	観光振興一般事務費（観光・商工業活性化事業補助金）	部会名	
				所属名	観光課
				係名	観光政策係

I 計画

事業内容		
事業の目的	観光や商工業の推進による魅力あるまちづくりの推進と交流人口の増加を図ることを目的とする。	
事業の対象者	対象者：観光振興団体 対象事業：歴史・文化遺産・地域特性をいかした観光振興に係るユニークな事業	
手法（実施内容）	事業の目的を達成するための実施事業に対して補助金を交付。 令和6年度は(一社) 高梁市観光協会に補助金を交付し、各種イベントや広域連携誘客事業を実施予定。	
根拠法令等	高梁市観光・商工業活性化事業補助金交付要綱	
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	
	現状分析	

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます	R 3 年度			2,897	2,897	0.01	55	2,952
施策	観光の振興	R 4 年度			7,606	7,606	0.01	55	7,661
施策の展開方針	地域での観光振興活動を支援します	R 5 年度			2,830	2,830	0.01	55	2,885

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和３年度	・ラッピングバスで巡る吹屋周遊モニターツアー事業 事業費：1,382,500円 補助額：1,086,875円 ・岡山ＤＣプレキャンペーン事業 事業費：1,720,483円 補助額：1,700,000円	補助金	2,787 千円
			千円
			千円
令和４年度	・周遊イベント事業 事業費：1,523,365円 補助額：1,500,000円 ・赤で彩るアート展 事業費：6,270,724円 補助額：6,000,000円 ・広域連携誘客事業 事業費： 105,170円 補助額： 105,170円	補助金	7,606 千円
			千円
			千円
令和５年度	・赤で彩るアート展 事業費：2,960,918円 補助額：1,000,000円 ・広域連携誘客事業 事業費：1,830,000円 補助額：1,830,000円	補助金	2,830 千円
			千円
			千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
観光振興を図るため、時勢に合わせた事業を展開し補助金を交付してきた。直接的な事業効果以外は効果検証が難しいが、観光振興事業を進めて行くうえでは必要な事業と考えている。今年度から事業ごとの補助金額を予算化せず、（一社）高梁市観光協会が企画する事業に対して予算化することで、時勢に合わせたより柔軟な事業展開を期待している。			

III 担当課の評価・改善

評価項目	活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価	
目的妥当性	適切	総合計画にも定義されている目的でもあり、観光振興を図るうえでは推奨すべき目的である。
有効性	適切	交流人口の増加を図るうえで、イベントの開催や連携事業は必要であり、直接的な効果のうえに、周知や連動などといった効果も期待できる。
費用対効果	適切	事業に対する効果検証を行うとともに、その時勢に合わせた事業内容と費用対効果を検証する。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	単なるイベント開催だけではなく、観光情勢を見据えた事業展開（R6：森芸、R7:万博など）が必要
ニーズ	変化なし	



部会長（本部委員）コメント	多面的かつ柔軟な事業展開が必要な観光施策推進のため妥当な手法であるとともに、継続して実施すべき事業である。
---------------	---

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 5 月 31 日

事業番号	10302	事業名	日本遺産推進事業	部 会 名	産業経済部
				所 属 名	観光課
				係 名	日本遺産・歴まち推進係

I 計画

事業内容		
事業の目的	令和2年に「「ジャパンレッド発祥の地」－弁柄と銅の町・備中吹屋－」として日本遺産に認定された吹屋等の更なる深化や認知度の向上等を図ることにより、誘客等地域活性化に繋げる。	
事業の対象者	市民および全国	
手法 (実施内容)	日本遺産関連商品・サービス開発支援事業、弁柄等関連文献調査事業、吹屋周遊事業、構成文化財等解説版修繕事業、案内看板設置事業、構成文化財修繕事業、PR活動等	
根拠法令等		
成果目標 (アウトカム)	目標(数値)	令和8年度までに観光客数約52万人
	現状分析	令和元年度 45万人

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）								
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち		事業費				人件費(概算)		総計	
			国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工		合計
政 策	観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます	R 3 年度	29,750			1,414	31,164	1.50	8,247	39,411
施 策	観光の振興	R 4 年度	30,085			13,795	43,880	1.50	8,247	52,127
施 策 の 展 開 方 針	観光交流人口の拡大に努めます	R 5 年度	2,552			9,804	12,356	1.50	8,247	20,603

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度	日本遺産シンポジウム開催（約160人）、日本遺産インバウンド視察ツアー（10人）、文献調査（524点）、日本遺産ホームページ作成、疑似体験XRコンテンツ制作、吹屋連絡所公衆トイレ改修工事	VR・HP作成	22,150 千円
		公衆トイレ改修工事	18,350 千円
		シンポジウム、インバウンド視察	2,000 千円
令和 4 年 度	ブランド商品コンセプト策定、文献調査（調査2473点）、パンフレット（3000部）・ポスター（300部）作成、PR動画制作（4作）、日本遺産センター整備	日本遺産センター整備	23,170 千円
		ブランド商品開発支援	9,085 千円
		パンフレット・ポスター・PR動画作成	7,600 千円
令和 5 年 度	ブランド認定制度の策定・ブランド商品開発費用補助金（2件交付）、備中吹屋ロゴマーク商標登録、ブランド商品認定（3品）、文献調査（データ化1293点・アーカイブ化429点）、案内看板設置（6点）	ブランド商品開発支援	4,229 千円
		案内看板設置	3,913 千円
		文献調査	2,104 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
日本遺産センターの整備により観光客の満足度を上げることができている。またPR動画やHPの公開、ポスター等の配布掲示により日本遺産吹屋の認知度も上がっていると考えるが、引き続き地域の方々と協同し知名度と観光客の満足度を向上させるよう取り組む。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	日本遺産は認定されたのち文化庁へ提出した地域活性化計画に基づく事業を令和2～7年の計画で実施したのち評価を受ける必要がある。認定取り消しの結果もありうるため設定した目的を遂行する必要がある。
有効性	適切	日本遺産は認定されたのち文化庁へ提出した地域活性化計画に基づく事業を令和2～7年の計画で実施したのち評価を受ける必要がある。認定取り消しの結果もありうるため定めた計画を行っていく必要がある。
費用対効果	適切	ハード・ソフト面での整備を行っているところであり費用は生じているが効果もみられており今後の効果も見込まれるため適切であると考える。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化なし	
二 ー ス	変化なし	



部会長（本部委員）コメント	日本遺産の価値をさらに高めるため、関係機関との連携をより強化しつつ、継続して実施すべき事業である。
---------------	---

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 5 月 31 日

事業番号	10303	事業名	観光振興一般事務費（グリーンスローモビリティ運行管理委託料）	部会名	
				所属名	観光課
				係名	観光政策係

I 計画

事業内容		
事業の目的	吹屋地区に点在する観光地を結ぶ2次交通手段の確保と観光誘客コンテンツとして滞在時間の延長と観光消費の向上	
事業の対象者	市内県外観光客一般	
手法（実施内容）	4月から11月末までの主に土日、祝日の運行で、旧吹屋小学校を起点終点とし、吹屋の町並みを周遊するコースと、下町駐車を発着に笹畝坑道やベンガラ館を経由して広兼邸までを往復するルートを2台のグリスロで運行と、車両自体の管理等を委託するもの。	
根拠法令等		
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	年間約6,000人利用
	現状分析	昨年度数値を目標とし、今年度はコースを変えての実証。GW期間中で600人乗車している。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政 策	観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます	R 3 年度				0		0	0
施 策	観光の振興	R 4 年度				0		0	0
施 策 の 展 開 方 針	観光交流人口の拡大に努めます	R 5 年度			2,286	2,286	0.01	55	2,341

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度			千円
			千円
			千円
令和 4 年 度			千円
			千円
			千円
令和 5 年 度	年間利用数5,554人	運行業務委託料	2,286 千円
			千円
			千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
・今年度の11月までの運行は概ね順調で、乗客の反応も非常に良かったと感じる。			
・乗客の目的が「2次交通利用」と「観光周遊」の2つあり、その2つを1つのグリスロに詰めていたため、バス停に着いても降車しない状況が見られた。			
・運行コースを二次交通利用と周遊利用の2つ設定し運行を試行する。 ・現在の無料運行から有償運行に切り替え、ツアー利用も検討していく。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	総合計画の方針に沿った目的として妥当である。
有効性	改善の余地あり	R6年度で運行コースを二次交通利用と周遊利用の2つ設定し運行を試行しており、事業の目的を達成するために、何が最善かを今後も検討していく。
費用対効果	適切	一定の費用対効果は見込める。その時々状況をしっかりと把握し、運行計画の逐一の見直しも委託業者と協議して行うことが必要。今後は有償運行も検討。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化なし	
ニーズ	増加	グリスロのメーカーや各種メディアに取り上げられてきたことから、利用ニーズは高まってきている。今後は定期運行に加え、旅行会社等への売込によりツアー利用も検討。

部会長（本部委員）コメント	ある程度の利用者負担は必要であり、早期有償化を条件に実施すべき事業であると考えている。
---------------	---

令和 6 年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和 6 年 6 月 3 日

事業番号	12301	事業名	中小企業資金融資利子補給事業	部会名	産業経済部会
				所属名	産業振興課
				係名	商工労働係

I 計画

事業内容		
事業の目的	中小企業の育成を図るために必要な資金の融資を促進する措置を講ずるとともに、利子補給や信用保証料補給を行い中小企業の経営を支援する。	
事業の対象者	市内中小企業者、岡山県信用保証協会、市内金融機関	
手法（実施内容）	「中小企業振興資金融資制度利子補給事業」、「中小企業設備近代化資金融資利子補給事業」、「緊急経済対策資金利子補給事業」、「災害対策中小企業融資利子補給事業」、「新型コロナウイルス感染症関連融資利子補給」、「中小企業振興資金補償融資損失補てん金」を実施することで、岡山県信用保証協会に対し保証料補助金、市内中小企業者等に対し利子補助金の交付を行っている。	
根拠法令等		
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	市内の中小企業者または中小企業団体の金利負担軽減を図り、経営の安定に寄与するとともに、設備の近代化又は合理化を促進する。
	現状分析	令和 3 年度～令和 5 年度で364件の交付決定

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	事業費				人件費(概算)		総計	
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます	R 3 年度		5,475		5,475	0.10	550	6,025
施策	商工業の振興	R 4 年度	612	2,984		3,596	0.10	550	4,146
施策の展開方針	経営力の向上を支援し、担い手・後継者を育成します	R 5 年度		3,650		3,650	0.08	440	4,090

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年度	・ 中小企業設備近代化資金融資利子補給事業補助金 50件 ・ 新型コロナウイルス感染症関連融資利子補給事業補助金 14件 ・ 緊急経済対策資金利子補給事業補助金 29件 ・ 災害対策中小企業融資利子補給事業補助金 37件 ・ 中小企業振興資金補償融資損失補てん金 1件 ・ 中小企業振興資金保証融資制度利子補給事業補助金 1件	災害対策中小企業融資利子補給事業補助金	2,036 千円
		中小企業設備近代化資金融資利子補給事業補助金	1,825 千円
		新型コロナウイルス感染症関連融資利子補給事業補助金	757 千円
令和 4 年度	・ 中小企業設備近代化資金融資利子補給事業補助金 61件 ・ 新型コロナウイルス感染症関連融資利子補給事業補助金 13件 ・ 緊急経済対策資金利子補給事業補助金 33件 ・ 災害対策中小企業融資利子補給事業補助金 1件 ・ 中小企業振興資金補償融資損失補てん金 1件 ・ 中小企業振興資金保証融資制度利子補給事業補助金 1件	中小企業設備近代化資金融資利子補給事業補助金	2,028 千円
		緊急経済対策資金利子補給事業補助金	710 千円
		新型コロナウイルス感染症関連融資利子補給事業補助金	612 千円
令和 5 年度	・ 中小企業設備近代化資金融資利子補給事業補助金 60件 ・ 新型コロナウイルス感染症関連融資利子補給事業補助金 8件 ・ 緊急経済対策資金利子補給事業補助金 53件 ・ 中小企業振興資金保証融資制度利子補給事業補助金 1件	中小企業設備近代化資金融資利子補給事業補助金	2,001 千円
		緊急経済対策資金利子補給事業補助金	1,333 千円
		中小企業振興資金保証融資制度利子補給事業補助金	187 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
利子補給事業により企業の安定的な経営に寄与することで、経営悪化による廃業は僅少である。また、豪雨災害や新型コロナウイルス感染症等の影響を受けた中小企業者等に対する融資については、事業活動に支障が生じた中小企業者等への支援策の一つとなっている。			

III 担当課の評価・改善

評価項目	活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価	
目的妥当性	適切	毎年度一定程度の利子補給や信用保証料補給を行い中小企業の経営を支援しているため。
有効性	適切	上記同様
費用対効果	適切	売上が減少した中小企業者等に対し、経営安定・事業継続に向けた支援の実施により、経営者の高齢化や健康・後継者の問題による廃業が散見されるものの、経営悪化による廃業が僅少となっている。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	平成 3 0 年豪雨災害の影響が少なくなり、また、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したものの、物価高騰・円安等に直面している。
二 ー ス	変化なし	上記の社会情勢・環境の変化に伴い、災害・コロナ関連の利子補給の件数は低下したものの、その他の補給金に関しては、一定数変わらず申請があり、物価高騰・円安等が進む中、中長期的に継続していくことが必要と判断される。

部会長（本部委員）コメント	雇用や生活基盤確保のため中小企業支援は必須であり、継続して必要な事業である。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 1 日

事業番号	14301	事業名	地域優良賃貸住宅整備事業	部 会 名	土木部
				所 属 名	都市整備課
				係 名	住宅係

I 計画

事業内容		
事業の目的	居住の安定に特に配慮が必要な子育て世帯に、居住環境が良好な地域優良賃貸住宅を建設し、若者子育て世帯の定住を図る。	
事業の対象者	子育て世帯（18歳未満の同居の親族があること）	
手法（実施内容）	これまで6団地14戸を管理しており、若者子育て世帯の定住に一定の効果を発揮してきた。そのため、引き続き住居環境の良好な賃貸住宅を供給し、若者の定住・子育て支援を図る。	
根拠法令等	特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律	
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	令和7年度 17戸
	現状分析	令和6年度 14戸

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます	R3年度 10,493	24,500		24	35,017	0.00	0	35,017
施策	都市機能の維持・確保	R4年度	8,800	1,000	20	9,820	0.00	0	9,820
施策の展開方針	住宅・宅地を整備します	R5年度 1,455	17,300		201	18,956	0.00	0	18,956

II 実行

主な活動実績（アウトプット）		主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度	川上中央住宅新築工事の実施設計業務委託を行い。新築工事と工事監理業務委託を行った。	建設工事	32,459 千円
		建設工事実施設計業務委託	1,672 千円
		工事監理業務委託	836 千円
令和 4 年 度	川面地区の地域優良賃貸住宅建設予定地の土地、家屋を購入して、住宅解体工事の実施設計業務委託を行った。	住宅解体工事実施設計業務委託	2,178 千円
		土地購入費	5,349 千円
		家屋購入費	2,293 千円
令和 5 年 度	川面地区の地域優良賃貸住宅建設予定地の住宅を解体工事を行った。 新築工事実施設計業務委託は繰越して令和6年度に行う。	住宅解体工事	14,762 千円
		工事監理業務委託	275 千円
		新築工事実施設計業務委託	2,910 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
これまで、6団地14戸を管理しており、令和6年度に実施設計を行い、令和7年度に2戸の建築工事を予定している。 また、令和6年3月に1戸が退去して、5月に定時募集を行ったが申し込みがなく空室のままとなっている。			

III 担当課の評価・改善

評価項目	活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価	
目的妥当性	適切	若者子育て世帯の定住に効果があると考えている。
有効性	適切	令和6年3月までは14戸全戸が入居していたが、令和6年3月に1戸が退去して、5月に定時募集を行ったが空室ままとなっている。若者子育て世帯の定住に効果があると考えている。
費用対効果	適切	1戸建て住宅であることや物価高騰で住宅使用料では耐用年数以上に管理しないと建設費用が賄えない。中心市街地の活性化という目的を追加し、マンションタイプの建設も検討していく。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	同居親族18以下の要件があるため、慣れ浸しんだ地域から出なければならない。定住対策の面からも国に対し制度の見直しについて働きかける必要がある。
ニーズ	変化なし	



部会長（本部委員）コメント	通学の問題、親との同居問題、継続居住（市内定住）の観点など、対象者のニーズが変化していくと思われる。制度の拡充と新規建設計画のバランスをとっていくためにも、事業の進め方を継続検討していく事業だと考えています。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 10 日

事業番号	16301	事業名	小規模飲用水供給施設整備事業	部会名	土木部会
				所属名	上下水道課
				係名	上水道業務係

I 計画

事業内容		
事業の目的	水道未普及地における地域住民の飲用水不足の解消、公衆衛生の向上及び生活環境の改善を図る。	
事業の対象者	水道未普及地における地域住民	
手法 (実施内容)	以下の事業を実施する個人等に対し予算の範囲内で補助金を交付する（事業費に対する補助金額：【 】）。 (1)水道未普及地区で行う配水本管等の新設事業に係る給水に必要な一体的な設備費【1/2以内】 (2)既存施設の区域拡張工事に係る工事費【1/2以内】 (3)補助を受けて設置した施設で、経年劣化によるポンプ修繕又は交換に係る費用【1/3以内】 (4)受益者1戸又は複数戸の既設給水設備において、水質改善に必要な滅菌装置・ろ過装置の新設にかかる費用（限度1回）【1/2以内】 (5)補助を受けて設置した施設で、災害等による施設の修繕又は交換にかかる費用【1/3以内】 (6)その他市長が特に必要があると認めたとき	
根拠法令等	高梁市小規模飲用水供給施設事業補助金交付要綱	
成果目標 (アウトカム)	目標(数値)	なし
	現状分析	なし

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ	
基本方針	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政 策	都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます
施 策	社会インフラの充実
施 策 の 展 開 方 針	上下水道施設の整備・管理に取り組みます

本事業に要する経費（単位：千円）								
	事業費					人件費(概算)		総計
	国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
R 3 年度	0	0	0	393	393	0.00	0	393
R 4 年度	0	0	0	300	300	0.00	0	300
R 5 年度	0	0	0	0	0	0.00	0	0

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費		
令和３年度	・浄水器の新設工事に対する補助　１件 ・揚水ポンプ等の修繕に対する補助　１件	補助金交付	63	千円
		補助金交付	330	千円
				千円
令和４年度	・揚水ポンプの新設工事に対する補助　１件	補助金交付	300	千円
				千円
				千円
令和５年度	なし			千円
				千円
				千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）				
水道は、住民が安心安全な生活を送るために必要なライフラインの１つだが、本市の水道事業で全ての水道未普及地域に水道を整備するのは、厳しい経営状況の中で容易なことではない。そのような中、申請者に自己負担をいただきながら、補助金交付という形をとることで、未普及地域でも効果的・効率的に「地域住民の飲用水不足の解消、公衆衛生の向上及び生活環境の改善」を図ることができている。				

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	上記「成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）」のとおり
有効性	適切	上記「成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）」のとおり
費用対効果	適切	上記「成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）」のとおり
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	本事業を活用しているエリアは、人口減少・少子高齢化の進行が著しい中山間の過疎地域が多く、地元で施設を維持管理していくことが難しくなっている。
二 ー ス	減少	小規模飲用水供給施設を新設する地域はなくなってきており、また、経年劣化によるポンプ修繕については、概ね15年以上経過していることが補助の条件となっているため、本補助金の利用は年間に数件程度である。しかしながら、人口減少に伴い水道事業も厳しい経営状況に置かれている中、新規に水道を整備するのは容易ではなく、費用対効果の観点からも本事業は必要であるとする。

部会長（本部委員）コメント	水道未普及地に対しての制度としては不可欠と考える。今後においても、自己水源の不安定や、集落人口の減少や高齢化による地域の困りごとは増えると思われるので、今以上の支援体制と制度の拡充を考えていかなければならないと考えます。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 1 日

事業番号	17301	事業名	単市土地改良事業（農林業団体育成振興事業補助金）	部会名	産業経済部
				所属名	西部土木事務所
				係名	管理係

I 計画

事業内容		
事業の目的	農業団体の健全な育成のため、活動に要する経費を支援する。	
事業の対象者	湯野土地改良区（受益者161戸）、山光園営農組合（受益戸数7戸）	
手法 （実施内容）	湯野土地改良区に対し補助金交付要綱に定めた金額を交付。 農業団体（湯野土地改良区・山光園営農組合）に対し電気代高騰分の補助金を交付。	
根拠法令等	高梁市農林業団体育成振興事業費補助金交付要綱（取扱内規）、高梁市補助金等交付規則	
成果目標 （アウトカム）	目標(数値)	農業団体の健全な育成
	現状分析	

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政 策	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます	R 3 年度			3,000	3,000	0.10	550	3,550
施 策	農山村の振興	R 4 年度	274		3,000	3,274	0.10	550	3,824
施 策 の 展 開 方 針	農山村の活性化を図ります	R 5 年度	185		3,000	3,185	0.10	550	3,735

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度	湯野土地改良区育成振興事業補助金 1件	湯野土地改良区	3,000 千円
			千円
			千円
令和 4 年 度	湯野土地改良区育成振興事業補助金 1件	湯野土地改良区	3,000 千円
	湯野土地改良区育成振興事業補助金（電気代高騰分） 1件	湯野土地改良区（電気代高騰分）	251 千円
	山光園営農組合育成振興事業補助金（電気代高騰分） 1件	山光園営農組合（電気代高騰分）	23 千円
令和 5 年 度	湯野土地改良区育成振興事業補助金 1件	湯野土地改良区	3,000 千円
	湯野土地改良区育成振興事業補助金（電気代高騰分） 1件	湯野土地改良区（電気代高騰分）	170 千円
	山光園営農組合育成振興事業補助金（電気代高騰分） 1件	山光園営農組合（電気代高騰分）	15 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
令和6年度JAトマト部会の資料によると湯野支部の生産販売実績は51.7%を占めている。湯野土地改良区では、電気代高騰の令和4年度・令和5年度は、国のコロナ対策支援により、経営が成り立っていた。令和6年度には国の補助金が高騰分の70%に制限され、令和7年度には、国の補助金がなくなることとなっている。今後、電気代が高止まりした場合は、経営が困難となり、土地改良区の収入増額・支出削減、補助金の増額等、検討が必要である。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	
有効性	適切	
費用対効果	適切	
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	湯野土地改良区では、電気代が令和3年度から令和5年度に40%増加しており金額で2,200千円の増額があり、今後も電気代が増額すること考えられるため、増額が必要。
二 ー ズ	増加	



部会長（本部委員）コメント	農業基盤確保のためある程度の支援は必要だが、受益者による経費軽減のための対策もあわせて必要である。
---------------	---

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 11 日

事業番号	18301	事業名	まちづくり支援事業	部 会 名	市民生活部会
				所 属 名	市民課
				係 名	市民協働係

I 計画

事業内容		
事業の目的	少子高齢化等により地域人口及び活動人材は減少し、今後のコミュニティの維持が困難になってきている。そのような中で、地域のまちづくり関連事業への支援を行い、地域住民による自発的で持続可能なまちづくり活動を促進する。	
事業の対象者	コミュニティ助成事業補助金 … 10/10を自治宝くじ助成金で充当し、申請団体へ交付。 地域振興事業補助金【局長調整費】 … 喫緊の地域課題に迅速に弾力的に対処するため、市民課・各地域局で執行。	
手法（実施内容）	【研修会の開催】住民主体のまちづくりを進めるために、地域課題解決に向けた研修会等の開催や県等主催の研修会へ参加し、先進事例を学ぶ。 【コミュニティ助成事業補助金】地域コミュニティを支援することにより、活動体制を維持し、コミュニティ活動の活性化を行う。 【地域振興事業補助金】地域から要望のあった制度では対応できないような案件に対して弾力的で迅速に対応する。	
根拠法令等	地域振興調整費補助金交付要綱	
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	地域リーダー養成研修等の開催 年1回
	現状分析	地域リーダー養成研修等の開催 平成29年度以降実施なし

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ	
基本方針	多様な主体との連携・協働による持続可能なまち
政 策	市民が主役のまちづくりを進めます
施 策	市民が主役のまちづくりの推進
施 策 の 展 開 方 針	主体的な住民活動を推進します

本事業に要する経費（単位：千円）								
	事業費					人件費(概算)		総計
	国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
R 3 年度			5,000	286	5,286	0.10	550	5,836
R 4 年度			3,800	372	4,172	0.10	550	4,722
R 5 年度			1,900	396	2,296	0.10	550	2,846

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度	コミュニティ助成事業補助金として、和太鼓の購入（備中太鼓）及びコミュニティ活動備品の整備（川上町七地）に対して助成（全額 自治宝くじ助成金を充当） 地域振興事業補助金として、霧の海展望の丘トイレ美化整備（松原町）を実施	和太鼓の購入（備中太鼓）	2,500 千円
		コミュニティ活動備品の整備（川上町七地）	2,500 千円
		霧の海展望の丘トイレ美化整備（松原町）	212 千円
令和 4 年 度	コミュニティ助成事業補助金として、エアコン新設・照明設備の更新（川上町高山市） 渡り拍子衣装・打ち鉦の新調（川上町地頭）に対して助成（全額 自治宝くじ助成金を充当） 地域振興事業補助金として、簡易トイレ設置（川面駅）等を実施	エアコン新設・照明設備の更新（川上町高山市）	2,400 千円
		渡り拍子衣装、法被、打ち鉦の新調（川上町地頭）	1,400 千円
		簡易トイレ設置（川面駅）	94 千円
令和 5 年 度	コミュニティ助成事業補助金として、吹屋新生会による物置やテント等の備品購入に対して助成（全額 自治宝くじ助成金を充当） 地域振興事業補助金として、霧の海展望の丘の階段修繕（松原町）及び方谷園につながる橋の塗装修繕（中井町）を実施	コミュニティ助成事業補助金（吹屋新生会）	1,900 千円
		霧の海展望の丘の階段修繕（松原町）	154 千円
		方谷園橋塗装工事事業（中井町）	171 千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
自治宝くじ助成金を活用して実施できる事業の掘り起こしなど、今後も積極的にまちづくり団体等の活動体制向上を図っていく。人口減少や高齢化などにより地域コミュニティの衰退が進行しているため、今後も活動体制の維持・強化を図る必要があると思われる。また、近年は地域を担う人材に対する研修会等が実施できていないため、地域で人材確保施策を学ぶ研修会等を実施することで地域コミュニティの活性化を支援する必要がある。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	地域まちづくりの振興にあたっては人材不足が問題となっており、イベントの縮小や中止がみられるようになっている。地域コミュニティの維持に寄与できるよう研修会を開催し、まちづくりに注力する必要がある。
有効性	適切	地域振興事業補助金では既存の制度では対応できないような案件に対して補助できるため、弾力的で迅速な対応が可能であり、市民要望に答えやすい事業となっている。
費用対効果	適切	コミュニティ助成事業補助金については、自治宝くじ助成金を活用することで市費負担なくコミュニティ支援ができており、費用対効果は高いものとなっている。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化なし	
二 ー ス	変化なし	



部会長（本部委員）コメント	事業についてはいづれも活用が図られており、継続と考える。 地域のまちづくり活動に生かしていくため、計画的に研修等にも取り組んでいく必要がある。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 11 日

事業番号	18302	事業名	地域振興基金運用事業（地域振興助成事業補助金）	部 会 名	市民生活部会
				所 属 名	市民課
				係 名	市民協働係

I 計画

事業内容		
事業の目的	地域資源を生かした自主的・主体的なまちづくり活動事業を継続して推進していく事業に対して補助金を交付する。	
事業の対象者	各イベント実行委員会（風ぐるまフェスタ実行委員会、マンガ絵ぶたまつり実行委員会）	
手法（実施内容）	各イベント実行委員会に対して補助金を交付し、魅力あるまちづくりとの推進と交流人口の増加に資する活動に役立ててもらう。	
根拠法令等	高梁市観光・商工業活性化事業補助金交付要綱	
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	コロナ禍以前の補助金額に対して10%減額（R1風ぐるまフェスタ3,200千円、R1マンガ絵ぶたまつり4,600千円）
	現状分析	R5の申請については、R1と同額の申請となっており事業の見直しに至っていない。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）								
基本方針	多様な主体との連携・協働による持続可能なまち		事業費				人件費(概算)		総計	
			国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工		合計
政 策	市民が主役のまちづくりを進めます	R 3 年度			1,000		1,000	0.05	275	1,275
施 策	市民が主役のまちづくりの推進	R 4 年度			2,000		2,000	0.05	275	2,275
施 策 の 展 開 方 針	主体的な住民活動を推進します	R 5 年度			6,850		6,850	0.05	275	7,125

II 実行

	主な活動実績（アウトプット）	主な支出内容と事業費	
令和 3 年 度	絵ぶたの街のイメージアップ事業	絵ぶたの街のイメージアップ事業	1,000 千円
			千円
			千円
令和 4 年 度	「マンガ絵ぶたまつり」の開催に対する補助	マンガ絵ぶたまつり	2,000 千円
			千円
			千円
令和 5 年 度	「うかん風ぐるまフェスタ」の開催に対する補助 「マンガ絵ぶたまつり」の開催に対する補助	うかん風ぐるまフェスタ	2,250 千円
		マンガ絵ぶたまつり	4,600 千円
			千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）			
イベント事業に対する補助であるためコロナ禍においては規模縮小となっていたが、コロナ禍の終息に伴い以前の補助額に戻っている。行財政改革においてイベントに対する補助金見直しの必要があることから、現在の社会情勢や市の財政状況を考慮しながらイベントの適正規模での実施を検討していく。しかしながら、イベントの規模縮小や中止などにより地域の活力低下につながらないように地元との協議が必要である。			

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	イベント実施に対する補助金の見直しが必要である。しかしながら、大幅な削減は地域振興に影響を与える恐れがあるため、開催方法の検討や適正規模での実施となるよう協議する必要がある。
有効性	適切	観光課からの補助も含めて、各地域での一大イベントに補助ができています。地域の伝統を守っていくためにも開催は必要であるが、地元の準備等の負担も大きいことから開催方法については検討が必要と思われる。
費用対効果	改善の余地あり	うかん風ぐるまフェスタについては納涼祭との合同開催、マンガ絵ぶたまつりについては夏絵ぶたの中止し、冬絵ぶたのみとすることも検討しており、費用は大幅縮小になる見込みである。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	地域の人口減少や高齢化により、地域もコミュニティ活動にかかわる人材確保に苦慮していることからイベント準備の負担が増加している。そのため、規模縮小や他イベントとの合同開催も検討している。
二 ー ズ	変化なし	



部会長（本部委員）コメント	地域振興基金の運用に係る検討経緯に基づき、地域を代表する事業に対する補助制度としている。見直し等については、地域の状況や意向を踏まえて継続的に考えていく必要がある。
---------------	--

令和6年度 高梁市事務事業評価シート

作成日：令和6年 6 月 11 日

事業番号	18303	事業名	結婚・出産祝金支給事業	部会名	市民生活部会
				所属名	市民課
				係名	市民協働係

I 計画

事業内容		
事業の目的	過疎化・少子高齢化の進行が著しい本市において、次代を担う子の誕生を祝い、出産祝金を支給することで地域福祉の向上を図る。	
事業の対象者	結婚記念品：市内に住所を有し、本市に婚姻届を提出された方 出産祝金：出生児を養育し、子とともに本市の住民基本台帳に記載され、本市に居住している方	
手法（実施内容）	該当の婚姻届提出者に対して2千円程度の結婚記念品を支給。 高梁市に居住している者に第1・2子に2万円、第3子以降に3万円の出産祝金を支給 (平成27年度～29年度にかけて、第3子50万円・第4子以降100万円として出生時・1歳到達時・小学校入学時に分割支給)	
根拠法令等	高梁市出産祝金支給要綱	
成果目標（アウトカム）	目標(数値)	出生数の増加
	現状分析	平成27年度から3年間、支給額の増額を図ったが、出生数及び若年層の転入増加にはつながらなかった。

高梁市総合計画（前期基本計画）における位置づけ		本事業に要する経費（単位：千円）							
基本方針	心をつなぐりを大切に支え合い助け合う健康のまち	事業費					人件費(概算)		総計
		国県支出金	起債	その他	一般財源	合計	人工	合計	
政策	安心して子どもが生まれ育つことができる環境を整えます	R3年度		9,600	1,649	11,249	0.10	550	11,799
施策	子育て支援の充実	R4年度		9,340	4,500	13,840	0.10	550	14,390
施策の展開方針	切れ目のない子育て支援の充実を図ります	R5年度		11,400	10	11,410	0.08	440	11,850

II 実行

主な活動実績（アウトプット）		主な支出内容と事業費		
令和３年度	出産祝金（平成29年度以前経過措置分（第3子20万円、第4子以降40万円）として小学校入学時に支給。【33人分】	出産祝金（平成29年度以前経過措置分）	8,600	千円
	出産祝金（第1・2子2万円、第3子以降3万円）として出生時に支給。【110人分】	出産祝金（第1・2子2万円、第3子以降3万円）	2,580	千円
	婚姻届提出時の結婚記念品としてボールペンを購入。	結婚記念品（ボールペン）	66	千円
令和４年度	出産祝金（平成29年度以前経過措置分（第3子20万円、第4子以降40万円）として小学校入学時に支給。【43人分】	出産祝金（平成29年度以前経過措置分）	11,600	千円
	出産祝金（第1・2子2万円、第3子以降3万円）として出生時に支給。【90人分】	出産祝金（第1・2子2万円、第3子以降3万円）	2,190	千円
	婚姻届提出時の結婚記念品として婚姻届カバーファイルを購入。	結婚記念品（婚姻届カバーファイル）	50	千円
令和５年度	出産祝金（平成29年度以前経過措置分（第3子20万円、第4子以降40万円）として小学校入学時に支給。【45人分】	出産祝金（平成29年度以前経過措置分）	11,400	千円
	出産祝金（第1・2子2万円、第3子以降3万円）は廃止とし、健康づくり課の「出産・子育て応援金事業」（妊娠届出後5万円、出生届出後10万円）にて支援している。			千円
				千円
成果目標の実現に向けた活動実績の分析（効果・課題等）				
平成27年度から29年度にかけて、第3子以降50～100万円支給する出産祝金事業を実施し、若年層の移住定住や出生数の増加に一定の効果はあったものの、財政負担や費用対効果の観点から3年間で事業の見直しを図り、従前の2～3万円に戻している。令和5年度については、出産祝金自体を廃止し、婚姻届時の記念品支給のみとしている。（平成29年度までの出産祝金入学時支給分の経過措置は令和6年度まで支給）（令和5年度からは健康づくり課の「出産・子育て応援金事業」（妊娠届出後5万円、出生届出後10万円）にて支援）令和5年の出生数は84人となっており、令和3年の118人と比較しても大幅に減少している。婚姻及び出生数の増加が人口減少率の縮小にもかかわるため、婚姻・出産にかかる何らかの取り組みは必要だと思われる。				

III 担当課の評価・改善

評価項目		活動実績の分析を踏まえた事業内容の評価
目的妥当性	適切	
有効性	改善の余地あり	若年層の確保や子育て世帯の負担軽減を図るには有効な事業である。第4子以降に100万円と話題性はあり高梁市を知ってもらうことはできたが、財政負担が大きいため継続できず、出生数や転入者数の増加にはあまりつながらなかった。
費用対効果	改善の余地あり	第4子以降100万円事業は財政負担が大きく継続性に欠けるものであった。平成28年出生者は前年比30人増となり効果はあったが、翌29年は47人減と例年並みの数値に戻っており、大規模支援の効果が薄れてしまっている。
本事業に関連する下記内容の変化（変化があった場合はその内容を記入）		
社会情勢・環境	変化あり	令和2年の国勢調査の人口減少率は県内市ワースト1位のマイナス9.4%、社人研では令和2年と令和32年との比較で人口が半分以上となると推計が出された。人口減少が相次いで問題視されているため、若年層が住みよい環境整備が必要となっている。
二　　　ス	変化なし	



部会長（本部署）コメント	出産祝金としては事業終了し、子育て支援の枠組みの中で拡充が図られている。 婚姻届出時には、活用してもらえる事業等の情報提供に注力していきたい。
--------------	--